

教養学部 教養学科 哲学歴史専修課程

養成人材

人文学及び関連する社会科学の諸成果を継承し、多様な文化及び価値観を理解するとともに、自ら問題を設定・解決し、国内外の人々と的確に意思を疎通できる能力を培うことを通して、現代の文化及び社会の諸問題に対処し得る人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与の方針

教養学部では、現代の文化及び社会の諸問題に対処し得る人材になるため以下の知識、能力を身につけ、卒業要件として定めている124単位を修得した学生に学士(教養)の学位を授与する。

(1) 専門的な深い知識の修得に関連する事柄

所属する専修課程(グローバル・ガバナンス専修課程、現代社会専修課程、哲学歴史専修課程、ヨーロッパ・アメリカ文化専修課程、日本・アジア文化専修課程)における学修によって、次のa~dを達成している。

- a. 各分野で蓄積された先行研究の成果をよく理解し、体系的で深い専門知識を修得する。
- b. 専門分野の方法(語学を含む)に習熟する。
- c. 専門分野に関して自身で問題を設定し、それについて探求・解決する能力を身につけている。
- d. 自身の研究成果を他者に説明し議論する能力を身につけている。

(2) 専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄

次のa, bを達成している。

- a. 人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い基本的知識を修得する。
- b. 所属する専修課程の専門分野に関連する分野の基本的知識を修得する。

(3) 知識を活用できる汎用的な能力の修得に関連する事柄

次のa~dを修得している。

- a. 幅広い視点に立って、自身で問題を設定する能力
- b. 設定した問題について情報や知識を的確に調査・収集する能力
- c. 設定した問題について多面的かつ論理的に考える能力
- d. 自らのアイデアを的確に伝える能力(語学の運用能力を含む)

(4) 学部における人材養成の目的に合致した能力の修得に関連する事柄

次のa, bを修得している。

- a. 国際的視野を持ち、国内外の多様な文化および価値観を理解する能力
- b. 現代の文化や社会の問題にさまざまな形で取り組む能力

教育目標

- 1 人文社会科学系専門科目を学修するための幅広い基礎を修得する。
- 2 所属専修課程(哲学歴史)における基本的な専門知識を修得する。
- 3 所属専修課程(哲学歴史)における特定の専門知識を修得する。
- 4 所属専修課程(哲学歴史)における専門分野の理解を深め、その知識を運用するための方法を修得する。
- 5 演習や卒業論文作成を通じて、所属専修課程(哲学歴史)の専門分野に関する問題設定と課題解決をする能力、およびその成果を発表する能力を育む。

年次	科目	到達目標	教育目標1	教育目標2	教育目標3	教育目標4	教育目標5
1~2	哲学芸術学入門	東洋の芸術作品に向き合う上で必須となる思想・文化の素養を身に付ける。	◎	○			
1~2	歴史学入門	人文学の存在意義を理解する。 歴史学の理念・方法・可能性と限界、隣接諸学との差異や接点を理解する。	◎	○			
1~2	哲学史概説A	・古代から17世紀までの西洋哲学史について、基本的な知識が身につく。特にギリシア哲学とキリスト教がいかなるものであったか、それらがその後のヨーロッパ思想をどのように規定していったかを理解する。 ・過去の哲学者の思索との対話を通して、現代的な諸問題を考えるために有用な視点が身につく。	○	◎			
1~2	哲学史概説B	18世紀以降の西洋哲学についてその流れを理解する。 哲学者たちの用いた概念を具体的な例に即した思索に生かせるようになる。	○	◎			
1~2	哲学基礎A	「我々とは何か」「世界とは何か」そして「両者はいかに関係しているのか」という伝統的な哲学的問題に関して、主に形而上学的な観点から17世紀以降から現在に至るまでの間の代表的な立場を概観することを通じて、哲学史についての基本的な理解を得るとともに、哲学的思考法に習熟する。	○	◎			
1~2	哲学基礎B	(1) 知覚と行動の関係を理解する。 (2) 近代フランス哲学における知覚論についての概観を得る。 (3) 自分の中に留まって思考するのではなく、世界との関わりにおいて自分の行為を反省する姿勢を習得する。	○	◎			
1~2	論理学入門A	次の各項目を授業の理解度の達成目標とします。 1) 日常的論証の構造分析と評価を行うための理論と技術を習得する。 2) 命題論理の範囲内で、日常語を記号化するための理論と技術を習得する。 3) 真理表によって、論理的真理や論証の妥当性を判定するための理論と技術を習得する。	○	◎			
1~2	論理学入門B	次の各項目を本授業科目の到達目標とします。 1) 古典述語論理の範囲で、日常語を記号化するための理論と技術を習得する。 2) 反証図によって、論証の妥当性や論理的真理を判定するための理論と技術を習得する。 3) 存在や普遍に関する哲学的諸問題と現代論理学との関係を理解する。	○	◎			
1~2	言語学入門A	伝統的な言語学の研究対象である言語体系、および、一般言語学についての知識を得る。	○	◎			
1~2	言語学入門B	1970年代ころから盛んになった、現在言語学において大きな比重を占めている言語行動論の主なトピックについての知識を得る。	○	◎			

1~2	美学概説A	美術作品、広告、報道などで用いられる視覚イメージは強いメッセージ性を持ちながら、その影響力が潜在的・無意識的であるため、論理的思考では把握しがたい性質を秘めています。誰が制作し、誰が消費するのか、見る／見られる、の政治的、経済的、ジェンダー的力関係はいかなるものか、歴史的、文化的背景は何か。この授業ではイメージにまつわるこれらの問いを投げかけ、ふだん無意識に見過ごしている視覚情報を処理する基本的な方法をお教えます。	○	◎				
1~2	芸術論概説A	デザインという領域概念の成立と展開について、歴史的事例から理解する。今日の視覚文化および物質文化を形成している構成要素について多角的な視点で検討でき、デザインを通して文化芸術の諸問題を分析する能力を養う。	○	◎				
1~2	芸術論史概説A	ビザンティン美術の基礎知識を学び、理解すること。	○	◎				
1~2	日本史概説A	原始・古代から現代に至る日本史の概略を論述できるようにする。	○	◎				
1~2	東洋史概説A	東アジアの歴史（主に中国史）を、政治や外交、経済、社会といった視点から多面的・総合的に把握できるようにする。現代のアジアと中国をめぐる諸問題の背景を理解し、歴史的思考力を身につける。	○	◎				
1~2	西洋史概説A	1) 近世近代の西洋劇場建築の歴史の流れを理解し、自らの知識とする。 2) 近世近代の西洋劇場建築の各建築様式、建築計画、建築意匠などの専門用語、建築家や建築作品などの固有名詞を理解し、自らの知識とする。 3) 上記の知識を適用して、近世近代の西洋劇場建築の様式・特徴などを分析できるようにする。	○	◎				
1~2	西洋史概説B	イギリスをはじめとするヨーロッパの大西洋奴隷貿易および大西洋奴隷制の歴史的展開によるグローバルな社会変容の概要を理解するとともに、そうした歴史的展開の諸要因や帰結、レガシーについて記述できること。また、それについて自分なりの論評ができること。	○	◎				
1~2	西洋史概説C	1. 20世紀ヨーロッパの基本的な歴史的展開について、基本的な時期区分、概念、理論などを使って論述することができる。 2. 20世紀ヨーロッパ史研究の主要論点を理解し、それに対する自らの見解を、史実や史料をふまえて論述することができる。	○	◎				
1~2	考古学概説	日本考古学を中心とした考古学の基礎知識を身に付ける。主として型式型、分布論を扱い、加えて時代によって日本考古学の成果を学ぶ	○	◎				
1~2	Investigating Japanese Art History via Contemporary Visual Media	Understanding art historical concepts through analysis of products of contemporary visual media	○	◎				
1~2	Modern Japanese History	The primary purpose of this course is to provide a survey of modern Japanese history covering the period from the late-16th to mid-20th centuries. A secondary purpose of this course is to introduce some of the scholarly debates that animate the study of modern Japanese history and thereby consider the nature of historical inquiry in general. They can also be expected to improve their English language capabilities.	○	◎				
2	哲学実習	近代ヨーロッパの文化史について、思想・文化と科学の相互連関という観点から踏み込んだ理解を得る。 人文科学の研究にあたっては（文章を読むだけでなく）実際に何かをやってみることが必要であるということを理解する。			○	◎		
2	論理学実習	次の各項目を授業の理解度の達成目標とします。 1) 同一性を含む第一階古典述語論理の記号法を用いて日常語を記号化する技術を習得する。 2) 第一階古典述語論理を応用したプログラミング言語Prologによって知識ベースを作る基礎技術を習得する。			○	◎		
2	史料学実習A（日本史）	日本近現代史に関する史料読解ができるようになる。			○	◎		
2	史料学実習B（日本史）	日本近世の一次史料（古文書）の取り扱い技術と読む力を身につけ、自立して史料調査ができるようになることを目標とする。			○	◎		
2	史料学実習C（東洋史）	中国史を研究するにはどうすればよいのか、中国史に関する史料をどう扱えばよいのかを理解する。 先行研究や史料の基礎的な探索・読解能力を身につける。			○	◎		
2	史料学実習D（西洋史）	1. 関心をもったテーマに関する一次史料を、自ら収集し、整理し、内容や特色について報告することができる。 2. 歴史学研究における一次史料の位置づけについて、説明することができる。			○	◎		
2	史料学実習E（西洋史）	この演習では、西洋史関係の史料（フランス史、および古代から19世紀までの西洋史の史料）の読解に必要な技法を修得します。文字史料だけでなく、図像史料、口承史料などの多様な史料を、「歴史学」の視点で読むこと、自分の「証明」したい「事実」について、どのような「史料」を「選択」し、「過去」を「再構成」してみせるか、といった卒業論文を執筆するうえで必要な「史料へのアプローチ」と「史料読解」の技術を総合的に身につけることをめざします。			○	◎		

2	史料学実習F(西洋史)	この演習では、西洋史関係の史料(フランス史、および古代から19世紀までの西洋史の史料)の読解に必要な技法を修得します。文字史料だけでなく、図像史料、口承史料などの多様な史料を、「歴史学」の視点で読むこと、自分の「証明」したい「事実」について、どのような「史料」を「選択」し、「過去」を「再構成」してみせるか、といった卒業論文を執筆するうえで必要な「史料へのアプローチ」と「史料読解」の技術を総合的に身につけることをめざします。			○	◎	
2	考古学実習A	・発掘に使う機材の利用方法の習得 ・測量などの原理の理解			○	◎	
2	考古学実習B	・発掘に使う機材の利用方法の習得 ・測量などの原理の理解			○	◎	
2	考古学実習C	・発掘技術を身につける ・考古学の報告書作成の技能を身につける			○	◎	
2	考古学実習D	・発掘技術を身につける ・考古学の報告書作成の技能を身につける			○	◎	
2	哲学研究法A	哲学の基本問題と哲学的思考法を習得する。			○	◎	
2	哲学研究法B	(1) プラトン哲学のいくつかの基本概念について説明できるようになる。 (2) 古典的哲学書を読みこなすための基本的技術を身に付ける。 (3) 他者と議論するための技法を身に付ける。			○	◎	
2	哲学研究法C	1) 形而上学という分野においてどのような諸問題があり、それらについてどのような考え方があるのかを理解する。 2) それらの問題について議論することによって、哲学的な議論を行うための基本的な方法と姿勢を身につける。 3) 形而上学に関連する他分野の哲学的諸問題や哲学史の事項について理解する。			○	◎	
2	哲学研究法D	1) 時間と空間に関してどのような哲学的問題があり、それらについてどのような考え方があるのかを理解する。 2) それらの問題について議論することによって、哲学的な議論を行うための基本的な方法と姿勢を身につける。 3) 時間論・空間論に関連する他分野の哲学的諸問題や哲学史の事項について理解する。			○	◎	
2	哲学研究法E	・文章構成の能力、プレゼンテーションの能力が身につく。 ・詩学、構造主義物語論、映像美学等の基本的知識が身につく。 ・黒澤明という映画作家に対する理解が深まるとともに、関連する著名な文学作品への関心が広がる。			○	◎	
2	哲学研究法F	・ドイツ語で人文科学の学術的な文章が読めるようになる。 ・「崇高」という美学的カテゴリーをめぐる学説史の知識を得る。 ・崇高なものをめぐる哲学的、美学的、倫理的な主要問題について自分なりに議論ができるようになる。			○	◎	
2	言語学研究法A	伝統的な言語学の研究対象である言語体系に関する、やや応用的なトピックについての知識を得る。			○	◎	
2	言語学研究法B	人間の行動の理解にとって不可欠であり、他のさまざまな分野と深く関わりあっている言語コミュニケーションに関する一般理論、及び、やや応用的なトピックについての知識を得る。			○	◎	
2	美学研究法A	美学、芸術論、芸術論史を学ぶときの入門・導入の授業として、芸術をめぐる多様な研究の方法論の違いとその基本を理解する。			○	◎	
2	美学研究法B	美学、芸術論、芸術論史を学ぶときの入門・導入の授業として、芸術をめぐる多様な研究の方法論の違いとその基本を理解する。			○	◎	
2	芸術論研究法A	芸術の生産(作品)が社会とどう関連しているか、制度、地域、経済、文化など様々な局面から探求する視点を持つことができる。実証的研究の具体的な方法を理解する。芸術資料の読み込みを通じて、研究テーマの設定及び関連する文献資料の収集ができる。			○	◎	
2	芸術論研究法B	評論家瀧口修造の批評を通じて、戦後日本美術の流れを理解する。その際、文献の検索、資料の分析方法と研究テーマの設定など、美術史研究の基本的な作法ができるようになる。			○	◎	
2	芸術論史研究法A	テーマに沿いつつ各自の関心に基づいてパワーポイントを作成し、口頭発表を行う。 与えられた課題を踏まえつつも、各々が独自の問題意識を持って発表テーマを決定し、様々な資料を収集した上で、発表としてまとめあげる。			○	◎	
2	芸術論史研究法B	テーマに沿いつつ各自の関心に基づいてパワーポイントを作成し、口頭発表を行う。 与えられた課題を踏まえつつも、各々が独自の問題意識を持って発表テーマを決定し、様々な資料を収集した上で、発表としてまとめあげる。			○	◎	
2	歴史学研究法A	日本近代史の論文とはどのようなものか、どうやって読めばいいのかを理解する。			○	◎	
2	歴史学研究法B	歴史学に関する文献の概要を整理し、重要な箇所やさらに検討すべき点を指摘し、自らの見解を述べる。 他者との議論を通して、文献に対する理解を深める。 定められた時間や書式に従って口頭発表・レポート執筆をおこなう。			○	◎	

2	歴史学研究法C	この演習では、西洋史関係の史料（フランス史、および古代から19世紀までの西洋史の史料）の読解に必要な西洋史学の研究方法を修得します。文字史料だけでなく、画像史料、口承史料などの多様な史料を、「歴史学」の視点で読むこと、自分の「証明」したい「事実」について、どのような「史料」を「選択」し、「過去」を「再構成」してみせるか、といった卒業論文を執筆するうえで必要な「史料へのアプローチ」「史料読解」に基づく実証という歴史学のスキルを総合的に身につけることをめざします。					○	◎
2	考古学研究法	①考古学の方法と分析手法の基礎を学ぶ ②自己の関心のある時代・地域の考古学的成果を学ぶ					○	◎
2	ギリシャ語Ⅰ	古典ギリシャ語文法の基礎を学び、理解する。	○					◎
2	ギリシャ語Ⅱ	古典ギリシャ語文法の基礎を理解する	○					◎
2	ラテン語Ⅰ	ラテン語文法の初歩を学び、理解する。 初級以上に向けた継続的な自習を進めていくために必要な基礎知識を身につける。	○					◎
2	ラテン語Ⅱ	ラテン語文法の基礎を学び、理解する。 初級以上に向けての継続的な自習を進めていくために必要な基礎知識を身につける。	○					◎
2~3	現代哲学Ⅰ	本授業は、哲学を学ぶ方に向けて、いま流行している哲学の潮流について、大まかな見通しを得ることを目標とします。					○	◎
2~3	現代哲学Ⅱ	本授業は、哲学を学ぶ方に向けて、いま流行している哲学の潮流について、大まかな見通しを得ることを目標とします。					○	◎
2~3	現代哲学Ⅲ	現代哲学のキーコンセプトとなっている「因果」「自由」「倫理」「差別」それぞれに関する議論の内容や論点を学びながら、現代哲学のスタイルを身に付けます。					○	◎
2~3	現代哲学Ⅳ	(1) フランス哲学における身体論についての概観を得る。 (2) AIの分野における身体性の問題の概観を得る。 (3) 人間の身体の特性と、AIあるいはロボットの身体の特性について比較検討できるようになる。					○	◎
2~3	現代哲学Ⅴ	物語論（「ナラトロジー」とも呼ばれる）における著名な理論の概要を理解する。 その諸理論を自ら活用しながら文学作品の分析ができるようになる。 人格、性格、人生、運命等の概念について哲学的な分析ができるようになる。					○	◎
2~3	哲学史Ⅰ	視覚の対象は外的な事物か心的なものか、知覚対象と知覚体験はどのような関係にあるのか、知覚は外界についてどの程度の情報を与えてくれるのかといった知覚を巡る哲学的議論の歴史をたどり、知覚の哲学の展開を理解し、自分なりの見通しを得る。					○	◎
2~3	哲学史Ⅱ	20世紀後半以降再び哲学の主要テーマとなった心身問題を中心とする心の哲学を取り上げる。デカルト以降の主要な立場を概観し、問題点を考えて行く。最終的に何らかの見通しを得ることを目表とする。					○	◎
2~3	哲学史Ⅲ	1. 古代ギリシア哲学・アリストテレス倫理学に関する基礎的知識を学ぶ。 2. 『エウデモス倫理学』における幸福論・偶運論・善美論等の概要を理解する。 3. 哲学／倫理的な考え方・学術的な文章の書き方を身につける。					○	◎
2~3	哲学史Ⅳ	カントとヘーゲルという二人の哲学者の思想の概要を理解する。 18世紀、19世紀ドイツの時代背景と思想の連関を理解する。 認識論、倫理学、社会哲学を学ぶ上で重要となるいくつかの基本概念に習熟する。					○	◎
2~3	哲学史Ⅴ	カントの批判哲学において論じられている問題の本質が分かる。 認識論、倫理学、美学に関わるいくつかの問題について掘り下げた議論ができるようになる。 カントの著作を自分で読めるようになる。					○	◎
2~3	倫理学Ⅰ	(1) 価値観に関する倫理的知識を獲得し、説明できるようになる。 (2) 倫理的な価値の比較をより公正で適切にできるようになる。 (3) 日常生活における価値の比較に必要な反省的態度を身に付ける。					○	◎
2~3	倫理学Ⅱ	・倫理思想史における主要な思想および代表的な立場の特徴を理解する。 ・応用倫理学の問題について、みずからの生活と関連づけて考えることができる。 ・学術的文章の書き方（アカデミック・ライティング）の基礎を身につける。					○	◎
2~3	倫理学Ⅲ	(1) ミル『自由論』における自由・個性・寛容の関係を理解し、説明できるようになる。 (2) 他人の個性を理解することの困難さを実感し、その原因を説明できるようになる。 (3) 寛容の問題を現実生活の中に見つけようとする思考的態度を身に付ける。					○	◎
2~3	音声学Ⅰ	音声学の基礎知識を得るとともに実際の聞き取り、発音ができるようになる。					○	◎

2~3	音声学Ⅱ	音声学の基礎知識を得るとともに実際の聞き取り、発音ができるようになる。		○	◎		
2~3	美学Ⅰ	近代の学問としての美学の成立過程を学び、その意義と限界について理解するとともに、美的経験の主体のあり方について反省的に吟味する素地を培う。		○	◎		
2~3	美学Ⅱ	芸術に対する美学的アプローチの一端に触れ、種々の事例のなかに自分の関心に応じた問題を見出し、自分の経験と結びつけて論理的に考察することができるようになる。		○	◎		
2~3	美学特殊講義Ⅰ	印象派のモネから、21世紀の点描まで、点描表現の歴史を理解し、それがなぜ生まれたか、その表象はどのような時代精神から生まれたかを、視覚文化的、哲学的に探っていく。点描表現は基本的に近現代が生み出した表象であることから、私たちの生きる時代の精神を深く考察する。		○	◎		
2~3	美学特殊講義Ⅱ	ポストモダンダンスの代表的な事例を通して、1960年代前後の転換期のアートおよびダンス/パフォーマンスとその社会的政治的文脈について学び、そこで提案されている身体のあり方がどのような意味を持ち得るのかを考える基礎を固める。		○	◎		
2~3	芸術論Ⅰ	複製技術による芸術作品（写真・映像）の特性と美術との相違、そして映像メディアによって形成される視覚文化の構造が理解できる。		○	◎		
2~3	芸術論Ⅱ	・芸術と日常生活の融合の歴史を知ることができる ・そのうえで、芸術とは何かを深く思考できる		○	◎		
2~3	芸術論特殊講義Ⅰ	戦前から戦後にかけて、世界の前衛芸術運動と連動して展開された日本の現代芸術が理解できる。		○	◎		
2~3	芸術論特殊講義Ⅱ	人類のメディア史の結晶体であるスマートフォンを手にして日々、生活する私たちの現在を形成してきたメディアの重層的な歴史を、その原点である洞窟壁画から現代のインスタグラムに至るまで、視覚文化の革命的転回点としての写真(テクノ画像)に注目しながら、メディア史の重要局面を追跡することによって理解し、生活・文化・芸術を巡る今日の社会と人間の存在の仕方を理解するための分析眼と思考力を身につけること。それによって、目まぐるしく変化する現代の社会と人間のあり方を読み解き考える根源的な意味でのメディアのリテラシーの力を育む。		○	◎		
2~3	芸術論史Ⅰ	西洋中世美術の作例に親しむ。キリスト教の主題を扱った作品を見た時に、その主題、典拠、意味が理解できるようになる。 旅先や美術館で出会った作品の解説を読まなくても、何が描かれているのか判るようになることを目指す。		○	◎		
2~3	芸術論史Ⅱ	近現代芸術にみる「前衛」について理解し、歴史、政治、イデオロギー、芸術領域の越境など多角的な視点から考察することができる。		○	◎		
2~3	芸術史Ⅰ	古代からルネサンスまでの西洋美術の歴史の流れを学び、様式を理解する。		○	◎		
2~3	芸術史Ⅱ	中世から近代までの西洋美術の歴史の流れを学び、様式を理解する。		○	◎		
2~3	芸術史特殊講義Ⅰ	受講者が講義を通じて、日本・東洋の芸術・美術に関する歴史的な展開を理解する その上で受講者が自己の興味・関心に基づいて、日本・東洋の美術・文化に関連する事項について独自に考察したテーマを設定し、レポートとしてまとめられるようになる		○	◎		
2~3	芸術史特殊講義Ⅱ	美術・デザイン作品を鑑賞し、文献資料を用いながら、近代という時代を論じることができるようになる。また、考察した内容を論文形式でまとめることができるようになる。		○	◎		
2~3	Animation StudiesⅠ	This course is in collaboration with academics from Australian universities, utilizing online guest lectures. Due to the current pandemic situation, course could be offered as online course. Introducing the academic field of Animation Studies with regards to animation production, animation aesthetics and the role of animation and sequential art in popular culture.		○	◎		
2~3	Animation StudiesⅡ	This course is in collaboration with academics from Australian universities, online lectures are a possibility. Introducing the academic field of Animation Studies with regards to animation production, animation aesthetics and the role of animation and sequential art in popular culture.		○	◎		
2~3	近現代日本の政治と社会Ⅰ	近代日本の植民地統治に関する理解を深め、説明できるようになる。		○	◎		
2~3	近現代日本の政治と社会Ⅱ	戦後日本における安全保障政策の展開について、諸史料の読解と叙述が可能となる。		○	◎		
2~3	近世日本の社会と文化Ⅰ	「土農工商」に代表される一面的な江戸時代像を克服するための視点を獲得し、通説・一般論を相対化する思考力を身につける。		○	◎		

2~3	近世日本の社会と文化Ⅱ	(1) 日本の宗教史に対する知識および東アジアの宗教に対する知識を身に付け、関連分野での調査・研究に役立てることができるようになる。 (2) 日本の歴史・文化を、国際的な視野から捉える姿勢を身に付け、関連分野での調査・研究に役立てることができるようになる。		○	◎		
2~3	近代アジアの国家と社会Ⅰ	19~20世紀の中国における法律制度、訴訟・裁判のあり方の特徴を理解する。 法という角度から、東アジアにおける国際関係史を理解する。 人間と法との関係について再考する。		○	◎		
2~3	近代アジアの国家と社会Ⅱ	大陸中国・台湾・香港における法律制度の特徴とその歴史的背景を理解する。 法という視点から東アジアの近現代史を見つめ直す。		○	◎		
2~3	ヨーロッパ近代社会文化史Ⅰ	1) 近世近代の西洋劇場建築の歴史の流れを理解し、自らの知識とする。 2) 近世近代の西洋劇場建築の各建築様式、建築計画、建築意匠などの専門用語、建築家や建築作品などの固有名詞を理解し、自らの知識とする。 3) 上記の知識を適用して、近世近代の西洋劇場建築の様式・特徴などを分析できるようになる。		○	◎		
2~3	ヨーロッパ近代社会文化史Ⅱ	中世からフランス革命にいたるヨーロッパ社会の歴史的变化の過程については、近年、その理解の捉え直しが行われています。中でも、啓蒙期のユートピア思想が「フランス革命」に果たした役割の捉えなおしは、「社会・文化史」（政治的なことがらや経済的なことがらも含めた広い意味での文化史）の大きな成果のひとつであり、18世紀の人々が夢見たユートピア思想の実験としてのフランス革命の過程が、これまでとは異なる側面から明らかにされつつあります。新しい社会として夢見られた18世紀ユートピア論の持っていた歴史的意義、産業化しつつある社会における理想都市がどのようなものとして描かれたのか、そのモデルの変遷、革命前夜における「新しい政治文化」と「ユートピア都市」の関係、啓蒙期のユートピアの歴史と「フランス革命」による断絶と連続、等々の問題の検討を通して、最終的には、「フランス革命の何が革命的であったのか」を再考することをめざします。		○	◎		
2~3	ヨーロッパ近現代社会史Ⅰ	18世紀から20世紀のイギリス社会における女性に対する価値観やフェミニズム思想を様々な角度から理解し、女性の権利の獲得が近現代のイギリス社会にいかなる影響を与えたのかを考察できるようにします。最終的には、イギリス女性史を深く理解することで、現代社会における「女性」に関する多様な問題について論じることができ、その解決策を模索することがこの授業の到達目標です。		○	◎		
2~3	ヨーロッパ近現代社会史Ⅱ	・近現代イングランドにおける「犯罪crime」の歴史を理解し、それをイギリス社会・経済・文化の変化と関連付けて歴史的に位置づけ、論じることができるようになることを到達目標とします。		○	◎		
2~3	東アジア考古学Ⅰ	日本を含めた東アジアの考古学成果について学ぶことを目的としている。詳細な内容はその年度によって変わるが、青銅器、鉄器、玉類といった個別の内容及び、遊牧民の出現、階層化社会の形成といった社会的なトピックを扱う。		○	◎		
2~3	東アジア考古学Ⅱ	日本を含めた東アジアの考古学成果について学ぶことを目的としている。詳細な内容はその年度によって変わるが、青銅器、鉄器、玉類といった個別の内容及び、遊牧民の出現、階層化社会の形成といった社会的なトピックを扱う。		○	◎		
2~3	Japan and the Asia-Pacific War	日本とアジア・太平洋戦争の要因や展開の歴史を概説する。それらに関する知識を身に付けることが期待できる。詳しくは英文のシラバスに参照。		○	◎		
2~3	History of US-Japan Relations	The primary purpose of this course is to provide students with a survey of the history of US-Japan relations. Successful participants should thus leave the course with sound fundamental knowledge of this history, insight that may also prove useful in understanding contemporary relations between these two countries. Because the course is conducted in English, non-native speakers will also have an excellent opportunity to improve their language abilities.		○	◎		
2~3	ドイツ語圏の歴史	以下の2点を主な到達目標とします。 1) 近現代を中心に、ドイツ語圏の社会がたどった歴史についての理解を深める 2) 文化・芸術と社会の関係性について考えるための具体的な視点をつかむ		○	◎		
2~3	アメリカ史概論Ⅰ	アメリカの歴史や社会、文化に関する知識を深める。 週10ページ程度の英文を毎週読み、要約し、コメントをすることで英文読解力ならびに発言力を高める。 文献に関するディスカッションに貢献する能力を涵養する。		○	◎		
2~3	アメリカ史概論Ⅱ	アメリカの歴史や社会、文化に関する知識を深める。 週10ページ程度の英文を毎週読み、要約し、コメントすることで英文読解力ならびに発言力を高める。 文献に関するディスカッション能力を涵養する。		○	◎		

2~3	歴史民俗学	日本の旧農村地域の生活文化への理解を深めるとともに、自らその知識を得る方法を身につける。		○	◎		
3~4	*哲学研究 I	推論、弁論、探求の論理に関して古代から近代までに確立・提唱された概念、方法が分かり、活用できるようになる。		○	◎		
3~4	*哲学研究 II	人格 (person) とは何か、人格の同一性はなぜ問題となるのか、これまでどのような説が提案されてきたのか等々について理解し、自分なりに考えてみる。		○	◎		
3~4	*論理哲学研究 I	1) 古典命題論理のヒルベルトタイプの公理系に関するメタ論理的考察について理解する。 2) 自然演繹による命題論理の証明の技術を習得したうえで、「直観主義論理」の基本について理解する。 3) 「証明する」ということが論理哲学的にどのような意味を持っているかを理解する。		○	◎		
3~4	*論理哲学研究 II	1) 古典述語論理における日常語の記号化とタブローによる証明法とを習得する。 2) 代表的非古典論理の一つとしての様相論理の基本について理解する。 3) 様相論理の哲学的背景について理解する。		○	◎		
3~4	*埋蔵文化財インターンシップ	考古学の専門技術を身につける		○	◎		
3~4	*考古学研究 I	日本の弥生・古墳時代考古学の概要を理解するとともに、多様な研究分野と研究傾向を自身の研究に活用することができるようにする。併せて併行する時期の朝鮮半島の社会について学び、考古資料による東アジアの国家形成期の社会・政治・文化解釈の事例を説明することができるようにする。		○	◎		
3~4	*考古学研究 II	日本の弥生・古墳時代考古学の概要を理解するとともに、多様な研究分野と研究傾向を自身の研究に活用することができるようにする。併せて併行する時期の中国の社会について学び、考古資料による東アジアの国家形成期の社会・政治・文化解釈の事例を説明することができるようにする。		○	◎		
3~4	*西洋史研究 I	西洋における歴史記述の歴史、および現在の歴史学の課題に関する知識を身につけること、それを通じて、歴史学に対する学生自身の考え方の確立に資することが目的である。		○	◎		
3~4	*西洋史研究 II	1. 20世紀の戦後ヨーロッパ史の主要動向について述べることができること。 2. 自らが関心を持つ特定のトピックについて、先行研究の論点を理解できていること。 3. 自らが関心を持つ特定のトピックについて、一次史料にもとづいた論述が展開できること。		○	◎		
3~4	*埋蔵文化財調査論 I	日本の弥生・古墳時代考古学のうち、墓の埋葬施設と副葬品に焦点をあてた授業内容を理解し、その多様な研究視点を自身の研究に活用することができるようにする。併せて墳丘、埋葬施設、副葬品の重要なデータである図面がどのように描かれているのか把握する。関連する遺跡発掘調査報告書を読み解くスキルを養う。		○	◎		
3~4	*埋蔵文化財調査論 II	ユーラシアの埋葬施設と副葬品に焦点をあてた授業内容を理解し、その多様な研究視点を自身の研究に活用することができるようにする。そして、墳丘、埋葬施設、副葬品の重要なデータである図面がどのように描かれているのか把握する。加えて、関連する報告を読み解くスキルを養う。		○	◎		
3~4	哲学演習 I	(1) ライブニッツ哲学の基本概念について説明できるようになる。 (2) 近世哲学についての概観を得る。 (3) 古典的哲学書を読みこなすための基本的技術を身につける。				○	◎
3~4	哲学演習 II	ベルクソン (1859~1941) 独自の時間論と自由論が展開されている『意識に直接与えられたものについての試論—時間と自由』を読み、時間とは何か、自由とは何かという問題について考える。				○	◎
3~4	哲学演習 III	デカルト形而上学について学び、その価値と問題について見通しを得る。				○	◎
3~4	哲学演習 IV	パークリー哲学について学び、その価値と問題について見通しを得る。				○	◎
3~4	哲学演習 V	アリストテレスの『詩学』とベルクソンの『笑い』という2つの分かりやすい著作を精読し、内容を理解する。 ヨーロッパの有名な古典的演劇について知識を得る。				○	◎
3~4	哲学演習 VI	1) 意志と行為に関する形而上学の問題について自ら思考するための哲学的方法を習得する。 2) 意志論に関連する哲学史的知識を獲得する。 3) 古典的哲学書を読みこなすための基本的技術を習得する。				○	◎
3~4	哲学演習 VII	1) 力能・傾向性に関する形而上学の問題について自ら思考するための哲学的方法を習得する。 2) 力能・傾向性に関連する哲学史的知識を獲得する。 3) 古典的哲学書を読みこなすための基本的技術を習得する。				○	◎
3~4	哲学演習 VIII	1) 自由と決定論に関する哲学的問題について自ら思考するための哲学的方法を習得する。 2) 自由と決定論に関連する哲学史的知識を獲得する。 3) 英語で書かれた哲学的文献を読みこなすための基本的技術を習得する。				○	◎

3~4	哲学演習Ⅸ	・古典的美学のいくつかの基本概念と基本問題を理解し、議論ができるようになる。 ・カントの文体、語彙に親しむことを通して、ドイツ哲学の古典を読む能力が身につく。					○	◎
3~4	哲学演習Ⅹ	・ドイツ語の基本的な哲学語彙を覚え、哲学書がドイツ語で読めるようになる。 ・20世紀前半のドイツ語圏存在論の基本的な問題意識や考え方を理解する。					○	◎
3~4	哲学演習ⅩⅠ	(1)自己意識の病理をキルケゴールはどのようにとらえたかを理解する。(2)キルケゴールのキリスト論・キリスト教会批判に触れることを通してキルケゴール哲学とキリスト教に対する理解を深める。					○	◎
3~4	哲学演習ⅩⅡ	様相概念(可能性、現実性、必然性等)の意味と論理について体系的な理解を得る。 実存哲学の基本的視点と姿勢が分かる。 西洋哲学と東洋哲学を表層的でない仕方に関連づけ、比較するような読書能力が身に付く。					○	◎
3~4	哲学演習ⅩⅢ	仏典を、自分で辞書・事典を引きつつ読む力が身につく。 仏教思想史のアウトラインに関する理解が得られる。					○	◎
3~4	言語学演習Ⅰ	語用論や認知言語学の基礎的な概念・用語を理解・習得し、議論のしかたを身につける。					○	◎
3~4	言語学演習Ⅱ	語用論や認知言語学の基礎的な概念・用語を理解・習得し、議論のしかたを身につける。					○	◎
3~4	言語学演習Ⅲ	語用論や認知言語学の基礎的な概念・用語を理解・習得し、議論のしかたを身につける。					○	◎
3~4	言語学演習Ⅳ	語用論や認知言語学の基礎的な概念・用語を理解・習得し、議論のしかたを身につける。					○	◎
3~4	言語学演習Ⅴ	語用論や認知言語学の基礎的な概念・用語を理解・習得し、議論のしかたを身につける。					○	◎
3~4	Language Analysis I	Content based English language learning based on theories of second language acquisition intended to support and develop English language skills and broader students' awareness of language function and use.					○	◎
3~4	Language Analysis II	Content based English language learning intended to supplement other English content based courses and foster an understanding of language in use.					○	◎
3~4	Language Analysis III	The learning objectives of this class are for students to develop an awareness of language analysis and second language acquisition in order to enhance knowledge of the English language for teaching and/or personal understanding of the language.					○	◎
3~4	Language Analysis IV	The learning objectives of this class are for students to develop an awareness of language analysis and second language acquisition in order to enhance knowledge of the English language for teaching and/or personal understanding of the language.					○	◎
3~4	美学演習Ⅰ	1960年代以降の諸ジャンルの混淆の中で登場してきたアヴァンギャルドの演劇／舞踊／パフォーマンス・アートとその理論、東西の舞台芸術の身体について多様な角度から学び、理解する。					○	◎
3~4	美学演習Ⅱ	1874年にフランスに始まった印象派は、そのグループ活動としては十数年しか持続しませんでした。現在に至るまで世界中の美術に影響しています。この授業では印象派、新印象派、ポスト印象派についての基礎知識を入れた後、Yale University Pressで2020年に出たGlobalizing Impressionismを読んで、印象派の国際的な波及について学んでいきます。					○	◎
3~4	美学演習Ⅲ	1960年代以降の諸ジャンルの混淆の中で登場してきたアヴァンギャルドの演劇・舞踊・パフォーマンス・アートとその理論、東西の舞台芸術に登場する身体のあり方について、多様な角度から学び、知見を深める。					○	◎
3~4	美学演習Ⅳ	1960年代前後の諸ジャンルの混淆の中で登場してきたアヴァンギャルドの舞踊／実験音楽／パフォーマンス・アートとその理論、東西の舞台芸術の身体について多様な角度から学び、理解する。					○	◎
3~4	芸術論演習Ⅰ	本書の読解をととして、人類のメディア史における「写真」というメディアの革命性について理解し、今日のメディアと人間の関係を読み解く視座を獲得する。					○	◎
3~4	芸術論演習Ⅱ	20世紀の万国博覧会における建築、デザイン、環境芸術、映像などの万博芸術の分析を通じて、技術、メディア、政治やイデオロギー、国際関係など芸術をめぐる諸問題について理解できる。					○	◎
3~4	芸術論演習Ⅲ	人間の芸術創造活動と自然科学、生物学、物理学との関連について理解する。					○	◎
3~4	芸術論演習Ⅳ	近代思想と政治的イデオロギーとの関連から、20世紀の芸術をめぐる諸問題(芸術の価値、芸術による革命、芸術の再生産)を発見し、先行研究をもとに課題を分析・考察することができる。自分の意見を整理し、グループで議論できる。					○	◎
3~4	芸術論史演習Ⅰ	テーマに沿いつつ各自の関心に基づいたパワーポイントを作成し、口頭発表を行う。 与えられた課題を踏まえながら、各々が独自の問題意識を持って発表の内容を絞り込み、様々な資料を収集した上で、発表としてまとめあげる。					○	◎



3~4	芸術論史演習Ⅱ	キリスト教図像学の基礎を習得する。与えられたテーマについて調べ、各自の問題意識に基づいてまとめ、発表する。					○	◎
3~4	Seminar in Visual Communication Design and Media Art in Australia and Asia I	Aim is to provide introduction to basic concepts in visual communication and media art					○	◎
3~4	Seminar in Visual Communication Design and Media Art in Australia and Asia II	Aim is to provide introduction to basic concepts in visual communication and media art					○	◎
3~4	Seminar in Visual Communication Design and Media Art in Australia and Asia III	Aim is to provide introduction to basic concepts in visual communication and media art					○	◎
3~4	日本史演習Ⅰ	日本近現代史についてのオリジナルな研究ができるようになる。					○	◎
3~4	日本史演習Ⅱ	日本近現代史についてのオリジナルな研究ができるようになる。					○	◎
3~4	日本史演習Ⅲ	日本近現代史についてのオリジナルな研究ができるようになる。					○	◎
3~4	日本史演習Ⅳ	日本近現代史についてのオリジナルな研究ができるようになる。					○	◎
3~4	日本史演習Ⅴ	日本近世史の現在の研究水準を踏まえた問いを自ら立て、史料に基づいた独自性の高い論文構成・歴史叙述・プレゼンテーションができるようになること					○	◎
3~4	日本史演習Ⅵ	日本近世史の現在の研究水準を踏まえた問いを自ら立て、史料に基づいた独自性の高い論文構成・歴史叙述・プレゼンテーションができるようになること					○	◎
3~4	日本史演習Ⅶ	日本近世史の現在の研究水準を踏まえた問いを自ら立て、史料に基づいた独自性の高い論文構成・歴史叙述・プレゼンテーションができるようになること					○	◎
3~4	日本史演習Ⅷ	日本近世史の現在の研究水準を踏まえた問いを自ら立て、史料に基づいた独自性の高い論文構成・歴史叙述・プレゼンテーションができるようになること					○	◎
3~4	東洋史演習Ⅰ	東洋史に関する文献の概要を整理し、重要な箇所やさらに検討すべき点を指摘し、自らの見解を述べる。他者との議論を通して、文献に対する理解を深める。定められた時間や書式に従って口頭発表・レポート執筆をおこなう。					○	◎
3~4	東洋史演習Ⅱ	歴史学に関する文献の概要を整理し、重要な箇所やさらに検討すべき点を指摘し、自らの見解を述べる。他者との議論を通して、文献に対する理解を深める。定められた時間や書式に従って口頭発表・レポート執筆をおこなう。					○	◎
3~4	東洋史演習Ⅲ	東洋史に関する文献の概要を整理し、重要な箇所やさらに検討すべき点を指摘し、自らの見解を述べる。他者との議論を通して、文献に対する理解を深める。定められた時間や書式に従って口頭発表・レポート執筆をおこなう。					○	◎
3~4	東洋史演習Ⅳ	歴史学に関する文献の概要を整理し、重要な箇所やさらに検討すべき点を指摘し、自らの見解を述べる。他者との議論を通して、文献に対する理解を深める。定められた時間や書式に従って口頭発表・レポート執筆をおこなう。					○	◎
3~4	西洋史演習Ⅰ	西洋史（フランス史全般、および、古代～19世紀までの西洋史）を中心に、西洋史研究において、近年提起されている新しい問題領域をとりあげ、映像資料を用いながら検討していきます。取り上げる問題は、下記の授業内容欄のとおりですが、出席者の関心に応じて、追加・変更を予定しています。これまでの研究の蓄積について、その成果の再検討を行い、問題点を見つけ出していき、といった研究史の整理にとどまらず、問題の克服のために、どのような新しいアプローチがなされてきたのか、また今後どのような研究方法が可能であるのかといった点を考察していきます。参加者には、それぞれ、自分が関心を持っている問題について、テーマを立てて探究し、まとめ、報告してもらい、レポートや卒業論文を、研究論文として書く技術を身につけ、またそれをプレゼンテーションする能力を獲得してもらうことをめざします。					○	◎
3~4	西洋史演習Ⅱ	西洋史（フランス史全般、および、古代～19世紀までの西洋史）を中心に、西洋史研究において、近年提起されている新しい問題領域をとりあげ、検討していきます。取り上げる問題は、下記の授業内容欄のとおりですが、出席者の関心に応じて、追加・変更を予定しています。これまでの研究の蓄積について、その成果の再検討を行い、問題点を見つけ出していき、といった研究史の整理にとどまらず、問題の克服のために、どのような新しいアプローチがなされてきたのか、また今後どのような研究方法が可能であるのかといった点を考察していきます。参加者には、それぞれ、自分が関心を持っている問題について、テーマを立てて探究し、まとめ、報告してもらい、レポートや卒業論文を、研究論文として書く技術を身につけ、またそれをプレゼンテーションする能力を獲得してもらうことをめざします。					○	◎

3~4	西洋史演習Ⅲ	西洋史（フランス史全般、および、古代～19世紀までの西洋史）を中心に、西洋史研究において、近年提起されている新しい問題領域をとりあげ、映像資料を用いながら検討していきます。取り上げる問題は、下記の授業内容欄のとおりですが、出席者の関心に応じて、追加・変更を予定しています。これまでの研究の蓄積について、その成果の再検討を行い、問題点を見つけ出していき、といった研究史の整理にとどまらず、問題の克服のために、どのような新しいアプローチがなされてきたのか、また今後どのような研究方法が可能であるのかといった点を考察していきます。参加者には、それぞれ、自分が関心を持っている問題について、テーマを立てて探究し、まとめ、報告してもらい、レポートや卒業論文を、研究論文として書く技術を身につけ、またそれをプレゼンテーションする能力を獲得してもらうことをめざします。					○	◎
3~4	西洋史演習Ⅳ	西洋史（フランス史全般、および、古代～19世紀までの西洋史）を中心に、西洋史研究において、近年提起されている新しい問題領域をとりあげ、検討していきます。取り上げる問題は、下記の授業内容欄のとおりですが、出席者の関心に応じて、追加・変更を予定しています。これまでの研究の蓄積について、その成果の再検討を行い、問題点を見つけ出していき、といった研究史の整理にとどまらず、問題の克服のために、どのような新しいアプローチがなされてきたのか、また今後どのような研究方法が可能であるのかといった点を考察していきます。参加者には、それぞれ、自分が関心を持っている問題について、テーマを立てて探究し、まとめ、報告してもらい、レポートや卒業論文を、研究論文として書く技術を身につけ、またそれをプレゼンテーションする能力を獲得してもらうことをめざします。					○	◎
3~4	西洋史演習Ⅴ	1. ヨーロッパにおける社会運動の歴史について、特定のトピックをとりあげ論じることができる。 2. 特定のトピックをより大きなヨーロッパ史の文脈に位置づけ、適切な報告を行うことができる。 3. 他の履修者の報告を聞き、内容を把握し、質疑応答やディスカッションに参加することができる。					○	◎
3~4	西洋史演習Ⅵ	1. ヨーロッパ史研究の諸論点について幅広い理解を持ち、自分の専門も含めて3つ以上の個別論点について概要を述べることができる。 2. ほかの履修者の報告を聞き、内容を把握し、質疑応答やディスカッションに参加することができる。 3. 卒論につながる調査、分析、報告、ディスカッションを自ら遂行することができる。					○	◎
3~4	西洋史演習Ⅶ	1. ヨーロッパ史研究の諸論点について幅広い理解を持ち、自分の専門も含めて2つ以上の個別論点について概要を述べるができる。 2. ほかの履修者の報告を聞き、内容を把握し、質疑応答やディスカッションに参加することができる。 3. 卒論につながる調査、分析、報告、ディスカッションを自ら遂行することができる。					○	◎
3~4	西洋史演習Ⅷ	1. ヨーロッパ史研究の諸論点について幅広い理解を持ち、自分の専門も含めて2つ以上の個別論点について概要を述べることができる。 2. ほかの履修者の報告を聞き、内容を把握し、質疑応答やディスカッションに参加することができる。 3. 卒論につながる調査、分析、報告、ディスカッションを自ら遂行することができる。					○	◎
3~4	考古学演習Ⅰ	考古学の論文作成に必要な知識、方法論の習得を目指す。特に専門論文を読み、自己の研究分野の現状の課題を理解することを求める。それによって自己の研究内容の位置づけを明確化するように指導する。					○	◎
3~4	考古学演習Ⅱ	考古学の論文作成に必要な知識、方法論の習得を目指す。特に専門論文を読み、自己の研究分野の現状の課題を理解することを求める。それによって自己の研究内容の位置づけを明確化するように指導する。					○	◎
3~4	考古学演習Ⅲ	考古学の論文作成に必要な知識、方法論の習得を目指す。特に専門論文を読み、自己の研究分野の現状の課題を理解することを求める。それによって自己の研究内容の位置づけを明確化するように指導する。					○	◎
3~4	考古学演習Ⅳ	考古学の論文作成に必要な知識、方法論の習得を目指す。特に専門論文を読み、自己の研究分野の現状の課題を理解することを求める。それによって自己の研究内容の位置づけを明確化するように指導する。					○	◎
3~4	考古学演習Ⅴ	考古学の論文作成に必要な知識、方法論の習得を目指す。特に専門論文を読み、自己の研究分野の現状の課題を理解することを求める。それによって自己の研究内容の位置づけを明確化するように指導する。					○	◎

3~4	Seminar in the History of US-Japan Relations I	この演習は日米関係史における様々な側面をより深く検討することを目標とする。演習の題目は学期によって設定するが、授業の主な課題は毎週に重要な文献と一次史料を読むことである。その課題を通して思考力を活かして討論に参加する学生が、演習のテーマに関する深い知識を身につけることが期待できる。また授業の課題と討論が英語になるので、学生の英語能力がより上達することも期待できる。今度の題目は、第二次世界大戦の中の日米戦争の歴史とその記憶を考察することである。それを到達するために出席者は文献を検討しながら討論することによって課題に関する問題を理解し、自分なりにその知識を身につけることが期待できる。英語能力の向上も期待できる。					○	◎
3~4	Seminar in the History of US-Japan Relations II	この演習は日米関係史における様々な側面をより深く検討することを目標とする。演習の題目は学期によって設定するが、授業の主な課題は毎週に重要な文献と一次史料を読むことである。その課題を通して思考力を活かして討論に参加する学生が、演習のテーマに関する深い知識を身につけることが期待できる。また授業の課題と討論が英語になるので、学生の英語能力がより上達することも期待できる。今度の題目は、第二次世界大戦の終結である。それを到達するために出席者は文献を検討しながら討論することによって課題に関する問題を理解し、自分なりにその知識を身につけることが期待できる。英語能力の向上も期待できる。					○	◎
3~4	Studies in Pre-modern Japanese History I	The objectives of the course are: 1. To trace the birth of the Japanese warrior, its evolution, and its termination. 2. To identify facts from fiction, and reality from misconception. 3. To understand the multi-layers and complexities of warfare and violence in Japanese history. In all, the course will shed light on the topic of Japanese warfare, that, although has been extremely popular in the entertainment world, has been only partly understood and often mis-understood all together.					○	◎
3~4	Studies in Pre-modern Japanese History II	The objectives of the course are: 1. To trace the birth of the Japanese warrior, its evolution, and its termination. 2. To identify facts from fiction, and reality from misconception. 3. To understand the multi-layers and complexities of warfare and violence in Japanese history. In all, the course will shed light on the topic of Japanese warfare, that, although has been extremely popular in the entertainment world, has been only partly understood and often mis-understood all together.					○	◎
3	哲学歴史総合演習 I	・哲学における具体的研究テーマの選び方、テーマ研究の展開の仕方、研究成果の文章化の方法を習得する ・研究発表会において的確に意見を述べたり、発表内容への評価を文章にまとめたりする能力を習得する ・論文を作成して、その内容をわかりやすくプレゼンテーションするための技術を習得する					○	◎
3	哲学歴史総合演習 II	1. 各自が卒業研究のテーマを設定できる。 2. 卒業生の卒業論文を批判的に読むことができる。 3. 卒業論文の書き方の基本がわかる。					○	◎
3	哲学歴史総合演習 III	(1) 卒業研究の分野を決め、具体的研究テーマの選び方、テーマ研究の展開のしかた、研究成果の文章化の方法を習得する。 (2) 研究発表会において的確に意見を述べたり、発表内容への評価を文章にまとめる能力を習得する。 (3) 自身の主題に即してわかりやすくプレゼンテーションするための技術を習得する。					○	◎
2~4	分裂した世界における人権	国際的視野を持ち、国内外の多様な文化および価値観を理解する能力					○	◎
2~4	民族紛争問題	中東の紛争の事例を学ぶことを通じて、世界各地の紛争全般の原因、経過、結果、解決や予防の手法を説明できるようになることを目指す。授業キーワード（下記）を定義づけ、説明できる。関心のある地域の事例について情報収集や分析ができる。					○	◎
2~4	現代のジェンダー	・ジェンダーやセクシュアリティとは何かを様々な事例に即して学び、その基本的な概念を修得していること。 ・自社会におけるジェンダーバイアスを認識し、それをジェンダーの視点から説明することができること ・ジェンダーの視点から、現代社会の課題について、自分の考えをまとめることができること。					○	◎
2~4	現代の民族	・民族の歴史に関する知識を獲得する。 ・グローバル化の中の民族のあり方について理解する。 ・現代世界の諸問題と民族との関係について人類学や社会学等でのどのような研究がなされてきたのかを把握する。					○	◎
2~4	比較思想	東アジアの思想的展開を理解することで、多元的文化に向き合う素養を得ることができる。					○	◎

2~4	異文化交流史 I	国境を越えた歴史叙述のあり方を、各テーマに即して習得する。この作業を通じて、広い歴史的視野から異文化を理解するための考え方を養う。		○	◎		
2~4	異文化交流史 II	現代の日中関係をめぐる諸問題の背景を理解し、歴史的思考力を身につける。		○	◎		
2~4	地中海文化圏講義	翻訳のテキストで、ボッカッチョの「デカメロン」からいくつかの物語を読みます。その中世物語文学の中で女性や恋愛・セクシュアリティがどう描かれているかについて分析します。さらに16世紀の刊本でそれらの表現にどのような検閲が行われたかを見ます。女性や恋愛が、中世においてどのような表現で描かれ、近代的印刷による刊本というメディアの出現の時代、どのような検閲が行われるようになったのかを考えます。さらに20世紀以降の我々の感覚とのズレがどのように生じているのか、現代のメディアにおける女性表象や恋愛観についても考えます。		○	◎		
2~4	欧米多文化主義論	アメリカの多文化主義の議論がどのように変化してきたかについて理解する。アメリカの多文化主義が観光地でどのように実践されているか事例を探し考察できるようになる。英語の文献を読み議論できるようになる。授業に関連させた事例を探し考察できるようになる。		○	◎		
2~4	世界の中の日本文化	日本・アジア文化における特定の専門知識を修得する。		○	◎		
2~4	漢字文化圏比較論	日本・アジア文化における特定の専門知識を修得する。		○	◎		
2~4	Contemporary Art and Media in Australia and Asia I	Exposure to art concepts and art works from diverse regions of Asia, Australia and Oceania		○	◎		
2~4	Contemporary Art and Media in Australia and Asia II	Exposure to art concepts and art works from diverse regions of Asia, Australia and Oceania		○	◎		
2~4	Comparative Higher Education	1.To understand key international higher education components and the historical events of Japanese higher education and the world. 2.To understand issues and challenges of contemporary higher education worldwide with their related policies and practices. 3.To perform your understanding in higher education research by producing research reports on international higher education.		○	◎		
4	卒業研究 I	卒業論文作成の基盤形成					◎
4	卒業研究 II	卒業論文作成の基盤形成					◎